

# 説明的文章(1)

◆指導ページ P.2～5◆

【指導のポイント】

説明文は、説明しようとしている話題や文章全体の構成が明確で、具体例が多い。その中でも指示語は内容を捉えるうえで重要であり、指し示している内容が何であるかを考え、あてはまる箇所を探す。接続語は前後の文章をつなぐので、役割を理解することは重要である。また、段落の要点と各段落の相互関係を理解し、著者が最も伝えたい文章の要旨を読み取ることが大切である。

## 例題の板書例

■文章の要旨

マツは好き好んでめでたい植物を買って出ているわけではない

◇めでたい↓何といても「マツ」

※どうしてマツはめでたいのか？

◇昔の人々↓冬⇨つらい季節⇨じつと春を待っていた

マツ⇨強靱な生命力⇨神々しい存在⇨不老長寿のシンボル⇨めでたきもの

◇冬⇨植物にとって光合成の効率が悪い⇨多くの植物は自ら落葉する

・落葉する植物⇨高度に適応した新しいタイプ

※マツ⇨落葉しない⇨古いタイプの植物⇨スギ・ヒノキ・モミ⇨針葉樹

■筆者の主張

冬の間、緑を保つことは決して簡単ではない。マツもできることならば、きれいなさつばり葉を落としたいと思っている。

重要語句

- 強靱⇨強くてねばりのあること。しなやかで強いこと。
- 不老長寿⇨いつまでも歳をとらず長生きすること。

## 演習問題の板書例

■文章の要旨

◇絶滅危惧種であるトキを守るにはどうすればよいか

・日本産トキが絶滅

・中国からトキを譲り受け、人工的に繁殖、佐渡に放つ

◇トキの放鳥の問題点

ある程度安定した生態系に新たな生物種を投入すると、生物群全体のバランスが変化し、生物群集の構造だけでなく、生態系の機能も変化する

例 湖にニジマスを投入

◆筆者の考察

・佐渡でのトキの放鳥は、佐渡の生態系全体に、何らかの影響を与える可能性がある

※私たちがすべきこと⇨トキの放鳥が佐渡の生態系にどんな影響を及ぼすか予測

⇨行かうかどうかの判断を下す

◆筆者の危惧

・佐渡でのトキの放鳥は、トキ自身にとって良いことではないかもしれない

⇨二七年间トキがいなかった間につくられた生態系は、トキには優しいものではない

⇨三組のつがいのトキが自然界で巣をつくり、産卵

◆その卵はことごとくカラスに食べられてしまった

※カラスが変えた生態系

・人間が出す生ゴミ⇨カラスの餌が増え、都市域を中心にカラスが増加

◆人間の活動が佐渡をカラスの多い生態系に変え、トキには住みにくい場所に

⇨佐渡でトキを放鳥した理由

・野生のトキが絶滅する直前まで佐渡で生育していたから

⇨佐渡の生態系がトキにとって最も棲みやすいところと考えられた

※佐渡の生態系は大きく変化し、トキには棲みにくい環境になってしまった

◆筆者の主張

トキの野生化を推進するにはトキが入り込みやすい生態系がつけられている場所を探し、そこで行うとよい

※佐渡に放鳥したトキの生態をよく観察し、トキの繁殖に適した生態系を明らかにすることが必要

重要語句

- 象徴⇨抽象的な思想・観念・事物などを、具体的な事物によって理解しやすい形で表すこと。

# 説明的文章(2)

◆指導ページ P.6～9◆

**【指導のポイント】**

論説文とは事実や事例に基づいて筋道を立てた文章である。著者の最も重要な結論(論旨)を捉えることが重要である。文章は事実と意見が明確に分けられており、論点の内容から著者の意見を読み取る。文章構成のなかでも特に中心段落はどこにあるのかを理解し、その根拠や理由を的確に把握したい。

**例題の板書例**

■**筆者の主張**  
人は誰でもセンスの良い服やもちものに憧れるが、その人自身にセンスがなければ、よいものを見分けることはできない。

■**展開**

◇感性⇨美しいと感じる感覚・知覚⇨センス

・センスのない人⇨ブランド品で身支度する⇨悪趣味

◇美しい形⇨センスによって磨かれる⇨感激したり、憧れる形

・プラス・アルファの心理的付加価値要素

※芸術家：付加をふくらませて絵画や彫刻に再現

◇センス⇨トレーニングによって磨かれる

①よいものを繰り返し見ること。その対象を好きになって関心をもつこと

②美の観点から評価⇨理由を口頭で説明できるようにする

■**著者のまとめ**

自分の好きな対象の情報を集め、繰り返し観察すること。そして、数多くの対象美の評価を的確に説明する訓練をすることでセンスは向上する。

**演習問題の板書例**

■**筆者の主張**  
日本人の場合、話の内容より表情や口調に反応するため、相手に接する態度を重視する。

■**展開**

◇人に何かを伝えるとき⇨言葉を吟味する

◇会話を…「相手に接する態度」⇨大きな要素

・日本人⇨話の内容より、表情や口調に反応

※会話⇨キー／場の雰囲気や互いの関係⇨スポンジ／言葉⇨クリーム

◇信頼関係の間柄⇨無神経な言葉も問題にならない⇨親愛の感情表現

⇨信頼関係の土台ができていない⇨たちまち崩れる

・日本人は常に空気を読む性質⇨自分との関係性⇨互いの距離感を探る

◎同質な人間同士の処世術

◇他民族社会⇨緊張感を生む⇨対等性を維持する⇨明確なルール作り

・日本人の国民性⇨希薄⇨同質の中でまどろんでいる⇨共通基盤が多い

・契約的關係に慣れていない⇨何らかの力関係が前提⇨「態度」が重要

◎マナー⇨共通基盤の一端

◇電車内での携帯電話⇨他人のプライベートや人間性を強制的に見せられている⇨本

人と周囲の間に「場」が成立していない⇨周囲の人間には堪えられない

・車内での不愉快な思い⇨日本人だけ⇨他国の人々は気にならない

⇨場の空気や常識を重視していない

■**筆者の主張(まとめ)**

私たちは伝統的に個人の自由より「場」を重んじてきたため、それがメンタリテイの中核に備わっている。

## 【指導のポイント】

小説を読んでいくうえで、人物・背景・事件の三要素をつかむことが大切である。場面の転換に注意し、登場人物の心情の変化や行動などから読み進めていく。情景描写から反映されていることがあるので、見落とさないように気をつける。また、直接文章には書かれていない場合でも、人物の雰囲気や動作などから、内容を把握することも求められるので、想像力を働かせて的確に読み進めたい。

## 例題の板書例

## ■場面

男先生が男の子をかかえながら、アン先生に初めて診てもらえないか頼んでいる。

## ■情景描写

※小さい男の子(ジュンくん)＝わんぱく・くりくりとした眼

◇先生の指示に従わない様子↓先生をにらんで、口をぐっと閉じている

← 先生に対する反発心

・アン先生…にこやかに舌圧子をかかけ、ジュンくんの口を開けさせた

← あつという間に口腔チェックを終える↓先生が手していたのは歯ブラシ  
↓ジュンくんがいつもクラスで使っているもの

◇橋田先生↓感嘆の声を上げる…歯ブラシで診察したことに対して

← 〈私〉アン先生が持つ独特の雰囲気をジュンくんが受け入れたので嫌がらずに診察を受けたと思っている

← ・嫌がる素振りをみせないジュンくんは初めてであり、いつもを知る橋田先生は、ただただ驚いている

## ■主人公の心情

「私」はジュンくんを機嫌を損ねさせることなく診察したアン先生に対して、尊敬の気持ちを含めている。

## 演習問題の板書例

## ■場面

桜田百貨店イベントの日、当日になってモデルに欠員が出てしまった。代役を立てなければいけないため、誰がモデルをやるかで社員同士が揉めている。

## ■人物描写

◎安西博子…この日はスカートを巻き、コンタクトに変える＝目立ちたがり

◎光山(お光)…無邪気にはしゃぐ様子からは想像できないが、仕事はできる

## ■情景描写

◇一般モデル…ルックスはまあまあだが、飛び抜けた美人はいない

← ・安西↓渋るスタイリストを説得している＝注目を浴びたい

← ・部長の姪が来られなくなる↓安西の顔色が変わる

← ・社内で代役を探すはめになる↓段取りのわかる人間でなければならぬ

◇部長↓安西に白羽の矢を立てる…安西は激しく拒否↓裏方の由紀子に薦める

← ・お光が現れる↓由紀子は嫌な予感…お光がやると言い出すのではないかと

← ・お光は安西を推す↓由紀子は胸を撫で下ろす↓お光と安西の押し問答

← ・困惑する部長＝責任者としての立場↓「業務命令」というお光の提案

← ・指名された安西＝顔をしかめ、後退り

⇔ 頬が紅潮。怒っている様子もない。むしろ、照れている

## ■主人公の心情

いつまでもモデルは女の子にとって憧れの職業であり、代役とはいえ安西はモデルをやってみたくて思っていた。しかし、社員の立場上、自ら手を挙げるのはおこがましかった。本心は誰かに推薦してほしいと望んでおり、部長に指名された瞬間、とまどいと喜びが入り交じった感情が溢れ出たのである。

## 【指導のポイント】

随筆とは筆者が日常生活の中で感じたこと、体験したことについて感想や意見を自由に書いた文章である。まず、情景を捉えたうえで、そこから筆者の心情を読み取っていく。大切なことは最も読者に伝えたい内容である主題を把握すること。表現としては文学的随筆と論説的随筆の二つがある。文章内容が感想と意見のどちらの部分に比重を置いているのかに注目することでより理解しやすくなる。

## 例題の板書例

■テーマ  
理想の散歩とはほど遠い現実

## ■展開

◇犬を飼う⇨三十数年で初めて⇨優雅で思索的散歩を想像  
◇小説を書くこと⇨運動不足⇨倉敷の田舎⇨手ぶらで歩く⇨目立つ⇨散歩×

・どっしりとした賢い犬を連れていく⇨遠慮なく散歩が楽しめる

◇ラブラドルの子犬「ラブ」を飼うことにした

・散歩デビュー当日⇨雲行きが怪しい

●リードを口に咥えようとする ●手に噛み付く ●叱ると余計に興奮する

◇はしゃいでいたラブ⇨硬直して動かない⇨溝に脚が挟まるのを怖がる

・何度も手本を見せる⇨効果なし⇨仕方なく道路の真ん中まで抱っこする

◇坂道⇨説得するが無駄 ※我が家⇨坂を歩けないと家の周囲を回るだけ

・優雅にして思索的な散歩といえるのか?

・坂の下まで再び抱っこ⇨平坦なのでもう大丈夫だろう

◇トラックが一台通り過ぎる⇨無茶苦茶な勢いで坂道を逆走

・慌てて追い掛け、取り押さえる⇨理想の散歩像は崩れる

## ■筆者の思い

自分の思い描いていた理想の散歩とかけ離れた現実には、時間が経つに連れ、疲労だけが貯まっていく。せつなく飼ったラブに対しても呆れるばかりで失望感だけが残っていた。

## 演習問題の板書例

■テーマ  
子供の頃から抱いていた文房具に対する愛着

## ■展開

◇薄暗い店の奥⇨おじいさんが座っていた⇨なぜか高い場所にいた気がする

・店にとびこむ⇨通路の両側に気持ち搔き立てる商品

・使う目的がある訳ではない⇨欲しい物は小さな物ばかり

◇目に入ってくるもの⇨身体の奥に滑り込み、練香花火のような欲求が弾けた

・店を出たとき⇨握りしめたコインはすっかり遣い果たされていた

※情動に引きずられた狂躁的ショッピング

◇大学時代⇨対象は都心の文房具店に移る

・大学の生協の文具売り場には引かれない⇨遊び心の生まれるゆとりがない

・あれこれ品をいじりまわしていると飽きなかった⇨目が行くのは小さいもの

※教室で用いるノート⇨生活必需品と似た感覚⇨興味をそえられるもの⇨とりわけノートのサイズ⇨使用目的が明確でない⇨嗜好品の入手に似ていた

◇大学時代に日記をつけていたことがあった⇨極めて勝手な日記

・いくつもの空白の目立つノート⇨日記を付けようと思いついた回数分の冊数

・ノートの形がその時々自分の気持ちを表していた

※日記をつけるために新しいノートを買ったのではなく、すでにあるノートから引き出していた

## ■筆者の思い

小さい頃から文具に対して特別な気持ちを抱いていたが、それは大人になっても変わることなく、執着と偏愛のような感情を今も持ち続けている。

【指導のポイント】

古典で用いられる歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直せるようにする。現代語とは異なる古語特有の意味を持つ語句があるので、正確に覚える。現代語では使われないものもあるので注意すること。また、主語・述語が省略されている場合があるのでしっかり読み取ること。漢詩は白文・訓読文・書き下し文があるのでそれぞれの決まりに従って読む。

例題の板書例

**1**

■テーマ

宰相は人の声が聞こえるのに誰もいないので不思議に思った。外に出ようとする、足駄の下から一寸法師が姿を見せたので、宰相は「おもしろい者だ」といって笑った。

○内容

◆一寸法師↓三条の宰相殿の屋敷に立ち寄る

・一寸法師：「ごめんください」↓宰相：おもしろい声だと思う

◆宰相↓周りを見渡すが、人影がない

◆一寸法師↓踏み殺されかねないと思い、足駄の下に隠れる

・「ごめんください」とまた声がする↓誰もいないのにおもしろい声で呼ぶ

◆宰相↓外に出てみようと思ふはこうとする：「私を踏まないでください」

◆足元を覗いてみると一寸法師がいた↓宰相はおもしろい者だといって笑った

重要語句

○おもしろし||快く楽しい。 ○おぼし||思われる。 ○一興||風変わりな。

**2**

■テーマ

A 歳月は人を待たない

・月日はあつという間に過ぎてしまうので、有意義に使わなければいけない

※「不」は打ち消しの意味で「ず」と読む。送り仮名はない

B 百里を行く者は九十里を半分とする

・終わりが近いからといって気を抜いてはいけない

※一・二点の決まりに従って読む

演習問題の板書例

**1**

■テーマ

人間は誠実な心を持つているので、物の本質を追究していれば心の持ちようも上品になる。

○内容

◆蝶をかわいがる姫君||按察使の大納言の娘

・並の姫君など足元にも寄れない

◆姫君：花や蝶をもてはやすのはあさはかではからしい

・物の本体を追究してこそ心持ちも上品である

◆不気味で恐ろしい様子の虫を色々収集している

※「これが成虫になる様子をみたい」↓観察用の虫かごに入れる

◆毛虫の思慮深そうな様子をしているのが奥ゆかしいと言って、朝晩手のひらの上でなであげている

重要語句

○あやしけれ||ばからしい。 ○よろづの||いろいろな。

○心にくけれ||奥ゆかしい。

**2**

■テーマ

老いて白髪頭になった自分(作者)は、鏡に映っても誰も分からないような変わり様である。それを秋の霜に例えることで時の経過への悲しみを描いている。

○現代訳

私の三千丈にもなるかと思うほどの白髪は、愁いのためにこのように長く伸びているのである。一点の曇りもない鏡に映る私の白髪頭は、老いて誰だか分からない。どこからこの秋の霜のような白髪はやってくるのだろうか。

【指導のポイント】

詩歌の鑑賞はまず意味や表現、情景を理解し主題を捉える。主題は「意味」・「表現」を捉え、作者の心情とその感動の中心を見つける。詩では反復法や体言止め、短歌・俳句は区切れや切れ字、季語などに着目する。比喩内容の理解、暗示された内容や強調された技法に注目することによって、よりの確な読み取りを心がけたい。

例題の板書例

<p><b>重要表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 比喩⇨直喩(～のように)⇨↑ 隠喩 擬人法⇨人間のようにならしたとえ。</li> <li>○ 反復法⇨同じ言葉や表現を繰り返す技法。</li> <li>○ 対句法⇨同じ内容や対立する内容をよく似た表現で並べて示す技法。</li> <li>○ 倒置法⇨語句や行の順序を逆にする技法。</li> <li>○ 体言止め⇨行末を体言(名詞など)で止めて余情をつくり出す技法。</li> <li>○ 省略法⇨言葉を省き、表現を簡潔にし、余情をつくり出す技法。</li> </ul>	<p><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代語を使って、自由な音数や行数で書かれた口語自由詩。詩の形式は他に定型詩、散文詩がある。</li> <li>・ 「ただ まっ白い」を繰り返している部分が反復法である。</li> <li>・ 「まんさく」は早春に黄色の花をつける落葉小高木である。「私」は、子供達の描いている絵画の枝間に黄色の絵の具をひとしずく落としてしまったが、子供達はそれを「まんさくの花が咲いた」と喜んだ。</li> <li>・ 冬が長いから、春を待ちわびている「北国の子供達」のことを描いた詩と考えられる。</li> </ul> <p><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「声」という体言止めを用いて、余情を残している。</li> </ul> <p><b>C</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代語に訳すと「神様が治めていたという不思議な時代にも聞いたことがない。竜田川の水を唐紅の鮮やかな赤色に絞り染めるとは」となるので、語順が入れかわっている倒置法である。</li> </ul> <p><b>D</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「菊」は秋の季語。この俳句は作者が陰暦九月九日の重陽の節句に奈良を訪れたときの句。</li> </ul>
---	--

演習問題の板書例

<p><b>短歌</b></p> <p><b>重要表現技法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 形式⇨三十一音の定型詩。</li> <li>○ 区切れ⇨短歌全体の意味の切れ目。(初句切れ、二区切れ…など)</li> <li>○ 枕詞⇨「あしひきの↓山」など、特定の言葉の前に置く言葉。</li> </ul> <p><b>俳句</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 形式⇨十七音の定型詩。(上五⇨五音/中七⇨七音/下五⇨五音)</li> <li>○ 季語⇨季節を表す言葉。原則一句一語。</li> <li>○ 切れ字⇨俳句全体の意味内容を区切る言葉。「や・けり・かな」など。</li> </ul>	<p><b>1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「すんなり」は「すらりとしなやかな様子」「抵抗なく進行する様子」という意味。鑑賞文⇨「逃げることも…否むこともできない」</li> <li>・ 鑑賞文3～5行目「次の瞬間に…直前の、充実した時間。…その輝く時間の中に」とある。黄金のような光・輝きが「充実」を表現している。</li> <li>・ 森を背後に明るいつ村に向かって立つ鹿は額を狙われ、今にも死ぬという状況に追い込まれている。その生と死の間にある詩歌の姿を描いた詩。</li> <li>・ 死ぬという状況の中で「生きる時間が黄金のように光る」情景が詩の中心にある。</li> </ul> <p><b>2</b></p> <p><b>A</b> 「草わかば」の緑・「赤き粉」⇨色彩の対照</p> <p><b>B</b> 「白妙の」「雪」⇨清浄な色彩として表れている</p> <p><b>C</b> 「夫婦」⇨仲むつまじく支え合っている</p> <p><b>D</b> 「日当たりながら落ちにけり」⇨明るい日差しの中での光景をスローモーションで描いている</p>
--	--

【指導のポイント】

与えられた資料から情報や事実を読み取れるようにする。ここでは、会話における各人の発言内容を読み取ることで情報を整理したり、資料の主な目的や工夫を明らかにしたりする。また、表と文章が混在したものに対しても、混乱することなく事実を正確に読み取ることができるようにする。

例題の板書例

■テーマ  
文化祭の作品展の出品募集について

■会話の流れ

- (1) ポスターの一部ではなく、全体の内容に関連するものが、表題としてふさわしい。
- (2) 展示スペースに適合した応募作品の大きさは、川野さんの発言内容から読み取れる。
- (3) 作品を応募するときの必要事項：作品の題名、制作者の名前(個人名またはグループ名) 授業や放課後の部活などで忙しい人の制作時間：早朝か昼休み
- (4) 作品の制作にふさわしい場所：美術室など、具体的な時間や場所を指定すること。
- (5) 内容として適切でないもの：高田さんと鈴木さんの発言からわかる。

■テーマ  
地球温暖化について

■発表原稿

◇平野さんの調査の対象とその目的  
調査対象：地球温暖化  
調査内容：地球温暖化の主な原因である温室効果ガスはどれくらい減少しているのか

◇平野さんの調査方法：インターネット、図書室の本

◇地球温暖化とは？ どんな問題が起こるのか？

※地球の平均的な気温が上昇

← 異常な高温、大雨、干ばつの増加などの気候の変化  
動植物の活動、水資源などへの影響

南極や北極の氷がとける ↓ 南太平洋の島国の浸水、水没  
異常気象 ↓ 洪水や浸水が起こりやすくなる

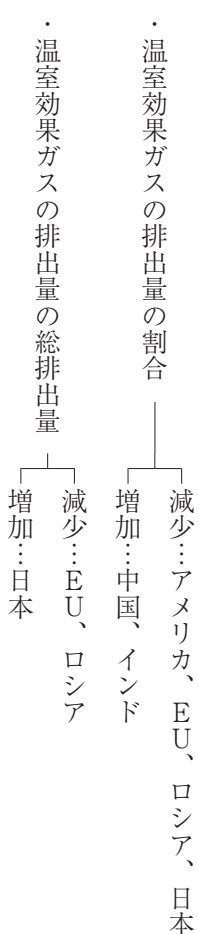
■地球温暖化が進み、百年後に約四度の気温上昇

↓ 生態系や水資源に深刻な影響

◇国際社会の目標：百年後の平均気温の上昇を、産業革命以前より二度未満に抑える

※産業革命以前の生活水準に戻すのは無理 ↓ 目標値の実現は困難に

◇図表の分析



※日本の総排出量は増えているのに、排出量の割合はなぜ減少しているのか？

↓ 中国やインドの排出量の増加が大きいため

◇日本の温室効果ガス削減方法は適切か？

↓ 削減目標を達成したようにみえるが、実際には排出量が増えているので不適切

演習問題の板書例

【指導のポイント】

文章の構成は段落・文・文節・単語から成り立っている。その中で主語、述語が文章の基本となり、双方が正しく対応している事が重要になる。文節と文節の関係を理解し、単語それぞれがどの品詞に属しているのかを把握することが大切である。また、作文・表現の基本である、受け身・呼応の副詞・助詞の並立などの表現もおさえておきたい。

演習問題の板書例

<p>1 (1) 昨日／私は／友人と／電車で／乗って／美術館へ／行った。(7)</p> <p>(2) 壁に／かけられて／いる／絵画は／あの／有名な／画家が／描いた／ものだ。(9)</p>	<p>2 (1) 温かくて おいしい スープを ごちそうに なった。 ↓並列</p> <p>(2) 太陽の 下で 海は きらきらと 輝く。 ↓修飾</p> <p>(3) もしまし、山田と 申します。 ↓独立</p> <p>(4) 作文が 完成したので、 先生に 提出しよう。 ↓接続</p>	<p>3 (1) 音楽 ↓名詞 (2) 元気に ↓形容動詞 (3) 見る ↓動詞 (4) さえ ↓助詞</p> <p>(5) 単なる ↓連体詞 (6) ような ↓助動詞</p>	<p>4 (1) イ この映画のよさは、展開を想像できない。</p> <p>「よさは」が主語なので、主語＋述語で表すと「よさは想像できない」となる。</p> <p>(2) ウ 私の父の趣味は、山に登ります。</p> <p>「趣味は」が主語なので、主語＋述語で表すと「趣味は山に登ります」となる。</p>	<p>5 (1) 先生は、自主的に教室を掃除している生徒たちをほめた。</p> <p>(2) 私が将来行つてみたい国は、芸術がさかんなフランスだ。</p>	<p>6 (1) 冬の澄んだ空気の中では、夜空の星がはっきりと見える。／昨夜天体観測が趣味である兄とともに観察をした。／オリオン座、おおいぬ座、ふたご座……。／兄は夜空を指さしながら、冬の星座の名前を私に教えてくれた。／(四つ)</p> <p>(2) どんどん／生まれる／新しい／製品の／使い方を／覚えるのは／たやすい。／(文節⑦)</p> <p>／ どんどん／生まれる／新しい／製品の／使い方／を／覚える／のは／たやすい。／(単語⑪)</p>
---	---	--	---	---	--

演習問題の板書例

<p>7 (1) 曲を ↓修飾語</p> <p>ポーランド ↓独立語</p> <p>(2) ありますよ ↓述語(主語「雑誌は」)</p> <p>(3) それでも ↓接続語</p>	<p>8 学校のグラウンドで、陸上の大会が開かれた。観戦にきた父がたくさんの写真を撮影した。その一枚を見ると、懸命に走っている私と友人の姿があった。</p> <p>(1) 開かれた。</p> <p>(2) 主語(「父が」) 述語(「撮影した」)</p> <p>(3) 並立(「私と」) (「友人の」) 補助(「走って」) (「いる」)</p>	<p>9 (1) 「小さな」…連体詞 ア形容詞 イ形容動詞 ウ連体詞 エ名詞</p> <p>(2) ①助詞 ②形容詞 ③名詞</p>	<p>10 (1) A「少しも」 ↓打ち消しの言葉と呼応</p> <p>B「話さない」 ↓「ルールは」の主語に対応していない</p> <p>C「私は」 ↓主語、「心配されている」という受け身表現はしない</p> <p>D「…たりたり」という表現</p>	<p>11 (1) たとえ失敗しても、努力を続けていけば目標は達成できる。</p> <p>(2) この電灯は、まるで太陽のような明るさで部屋を照らす。</p> <p>(3) 現代の家族を描いたその小説は、多くの読者に好まれた。</p>
---	---	--	--	---